

令和8年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

4年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	○既習漢字、新出漢字ともに定着に課題のある児童が3割程度いる。 ○メモを取ったり、話の要点を意識しながら聞いたりすることが苦手な児童が多い。 ○感情を表す言葉が乏しく、自分の思いを文章にする際に短文しか書くことができない児童が2割程度いる。	○ノートやプリントを書く際に既習漢字を使うよう促す。楽しみながら漢字を使う課題を用意し、漢字に親しむ機会を作る。 ○メモの取り方を全体で確認するとともに、実際にメモを取る活動を定期的に行う。 ○語彙力を高めるために、言葉の学習や辞書を使った活動を取り入れる。また、日記など日常的に文章を書く機会を増やしていく。	
社会	○ワークテストの結果から、3割ほどの児童に授業で学んだ内容を相互に関連付けてまとめたり、説明したりすることに課題が見られた。	○児童が事象と事象の結びつきを捉えることができるように、図や表を用いて、それらの関連性を可視化できるようにする。また、ペアやグループで、それらの関連を説明する活動を取り入れる。	
理科	○ほぼ全員が意欲的に観察や実験に取り組んでいる。そのため、学習内容の定着度も高いが、「電流のはたらき」の単元では直列回路、並列回路の理解が不十分な児童が多かった。 ○観察、実験の結果から規則性などについて考察することが苦手な児童が多い。	○理解することが難しそうな学習内容について扱う際は、例えば図、動画などを用いて丁寧に説明を行うようにする。また、理解を確かめる問題やミニテストを行い、定着度を確認しながら進める。 ○考察の書き方について指導するとともに、児童同士で交流する時間を作り、書き方のポイントに気付かせる。	

体 育	○水泳運動や表現運動において、約８割の児童が運動の行い方や技能のポイントを理解することができている。一方で、理解したことを実際の動きにつなげ、技能として身に付けることに課題が見られる児童が半数程度いる。	○友達と互いの動きを観察し、技能のポイントを伝え合う協働的な学習活動を充実させる。また、動きを比較したり振り返ったりする場面を設定し、自分の課題や改善点を考えながら技能の向上を図ることができるよう支援する。	
総 合 的 な 学 習 の 時 間	○調べ学習において、自ら課題を設定することが難しい児童が半数近くいた。「どのようなことを課題に設定すれば良いのか。」と躓く様子が見られた。	○身近な生活や体験を振り返る時間を設け、「不思議に思ったこと」「もっと知りたいこと」を出し合う活動を取り入れる。また、課題設定の具体例を複数提示したり、友達との対話を通して考えを広げたりすることで、自ら課題を設定できるよう支援する。	